

令和2年度病虫害発生予報第10号

令和2年12月2日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病虫害名 | 発生時期 | 予想発生量 |
|----|-------|-------|------|-------|
| 野菜 | ラッキョウ | 白色疫病 | 平年並 | 平年並 |
| | イチゴ | うどんこ病 | 平年並 | 平年並 |
| | | 灰色かび病 | 平年並 | 平年並 |

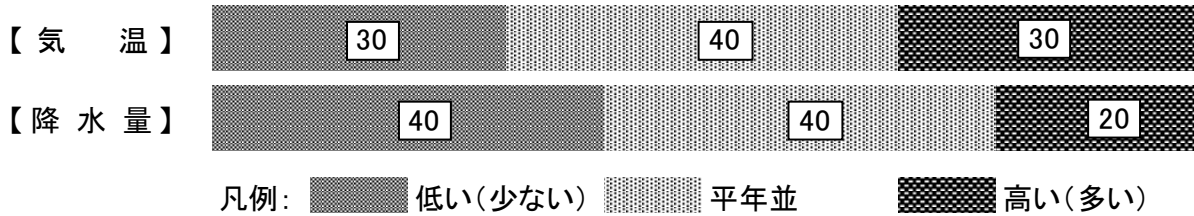
気象予報（抜粋）

1か月予報（11月28日～12月27日：11月26日、広島地方気象台発表）
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

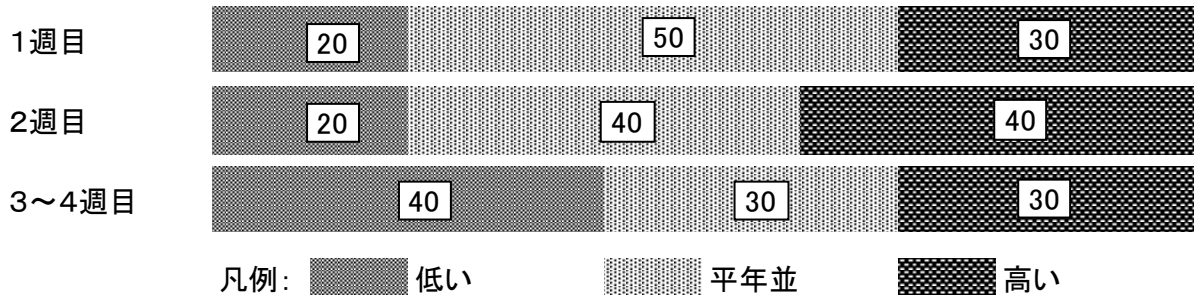
平年に比べて曇りや雨の日が少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並又は高い確率40%です。3～4週目は低い確率40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬現在、現地調査ほ場において、本病の発生は認められていない。
- イ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本病の発生を防ぐため、年内の防除を徹底する。
- イ 12月に、フォリオゴールド1, 000倍液、ランマンフロアブル2, 000倍液等を散布する。
- ウ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、フォリオゴールド1, 000倍液、ホライズンドライフロアブル1, 000倍液、フロンサイド水和剤1, 000倍液、ベトファイター顆粒水和剤2, 000倍液等を散布する。
- エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬現在、現地調査ほ場において、本病の発生は認められていない。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。
- イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔でローテーション散布する。その後、病勢が抑制されれば、7～10日間隔の薬剤散布に戻す。
- ウ QoI剤（アミスター20フロアブル等）は、機能性展着剤と混用すると薬害が発生しやすいので、これらの展着剤は加用しない。
- エ DMI剤（ラリー水和剤等）を使用する際は、炭酸水素塩剤（カリグリーン等）を混用すると防除効果が高まる。
- オ 硫黄粒剤のくん煙処理は、発病後の効果は低いため、発病前からの予防的な処理を行う。
- カ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるように丁寧に行う。
- キ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の本ぼにおける主な防除薬剤

| 農薬系統分類 | FRACコード | 薬 剤 名 | 希釈倍数・使用量 | 本剤の 使用回数 | 収穫前 日数 |
|----------------------|---------|--------------|----------------------------|-------------|-----------|
| 無機硫黄 | M02 | 硫黄粒剤 | 6～16 g /2000m ³ | — | — |
| | | イオフロアブル | 2,000倍 | — | — |
| 有機銅 | M01 | サンヨール | 500～1,000倍 | 6 | 前日 |
| アニリンピリミジン | 9 | フルビ°カフロアブル | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 |
| | | フルビ°カくん煙剤 | 50g/500m ³ | | 前日 |
| チアゾリジン・ アニリンピリミジン | U13・9 | ショウチノスケフロアブル | 2,000倍 | 2 | 前日 |
| グアニジン | M07 | ヘルコート水和剤 | 4,000倍 | 5 | 前日 |
| | | ヘルコートフロアブル | 2,000～4,000倍 | 5 | 前日 |
| グアニジン・ ヒドロキシアニリド | M07・17 | タ°イマジン | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| グアニジン・ ベンゾイルピリジン | M07・50 | ラミック顆粒水和剤 | 1,000倍 | 2 | 前日 |
| ベンゾイルピリジン | 50 | プロハ°ティフロアブル | 3,000～4,000倍 | 3 | 前日 |
| SDHI | 7 | アフェットフロアブル | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| QoI | 11 | アミスター20フロアブル | 1,500～2,000倍 | 3 | 前日 |
| | | ストロビー°フロアブル | 3,000～5,000倍 | 3 | 前日 |
| QoI・SDHI | 11・7 | シク°ナムWDG | 2,000倍 | 2 | 前日 |
| DMI | 3 | ラー水和剤 | 4,000～8,000倍 | 3 | 前日 |
| | | ルビ°ゲン水和剤 | 4,000倍 | 3 | 前日 |
| | | トリフミン水和剤 | 3,000～5,000倍 | 5 | 前日 |
| | | トリフミンジ°ェット | 50 g /400m ³ | 5 | 前日 |
| | | スコア顆粒水和剤 | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| DMI・ オキシムエーテル | 3・U6 | ハンチョTF顆粒水和剤 | 2,000倍 | 2 | 前日 |
| | | ハンチョTFジ°ェット | 50g/400m ³ | 2 | 前日 |
| キノキサリン | M10 | モレスタン水和剤 | 3,000～4,000倍 | 2 | 前日 |
| 脂肪酸グリセリド | — | サンクリスタル乳剤 | 300～600倍 | — | 前日 |
| 無機化合物 | NC・M01 | ジ°ーファイン水和剤 | 750～1,000倍 | — | 前日 |
| 無機化合物 | NC | カリク°リーン | 800～1,000倍 | — | 前日 |
| | NC | ハーモメイト水溶剤 | 800～1,000倍 | — | 前日 |

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場において発生は認められていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯れた下葉や病果は早めに除去する。

イ 하우스内が20℃前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上のかん水は避ける。

ウ 使用する薬剤は、表2を参考に7～10日間隔でローテーション散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の本ほにおける主な防除薬剤

| 農薬系統分類 | FRACコード | 薬剤名 | 希釈倍数・使用量 | 本剤の使用回数 | 収穫前日数 |
|------------------|---------|--------------|----------------------------|---------|-------|
| 有機銅 | M01 | サンヨール | 500倍 | 6 | 前日 |
| アズリノリミジン | 9 | フルビカフロアブル | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 |
| | | フルビカくん煙剤 | 50g/500m ³ | | 前日 |
| ジカルボキシミト | 2 | ロブラル水和剤 | 1,500倍 | 4 | 前日 |
| | | ロブラル500アクア | 1,000～1,500倍 | | 前日 |
| | | ロブラルくん煙剤 | 100g/300～400m ³ | | 前日 |
| | | スミレックス水和剤 | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| | | スミレックスくん煙顆粒 | 6g/100m ³ | | 前日 |
| SDHI | 7 | カンタストライフロアブル | 1,000～1,500倍 | 3 | 前日 |
| | | アフェットフロアブル | 2,000倍 | 3 | 前日 |
| QoI | 11 | アミスター20フロアブル | 1,500倍 | 3 | 前日 |
| | | ファンタジスタ顆粒水和剤 | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 |
| QoI・SDHI | 11・7 | シグナムWDG | 1,500～2,000倍 | 2 | 前日 |
| フェルビロール | 12 | セイビアフロアブル20 | 1,000～1,500倍 | 3 | 前日 |
| フェルビロール・ヒドロキシアニト | 12・17 | ジヤストミート顆粒水和剤 | 2,000～3,000倍 | 3 | 前日 |
| グアジソン | M07 | ハルコートフロアブル | 2,000倍 | 5 | 前日 |
| グアジソン・ヒドロキシアニト | M07・17 | タイマジン | 2,000倍 | 3 | 前日 |

[お知らせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.famic.go.jp/>)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

(TEL : 0857-53-1345、E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp)

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

(TEL : 0857-53-0721、FAX : 0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

(TEL : 0858-37-4211、FAX : 0858-37-4822)

※予報第11号の発表は、2月3日（水）の予定です。